

*The Genealogy of Fantasy: From Goya to Klinger*

## 幻想の系譜

ゴヤからクリンガーまで



1. フランシスコ・デ・ゴヤ  
《「ロス・カプリチオス(気まぐれ)」43 理性の眠りは怪物を生む》  
1797-98年 エッチング、アクアティント、紙  
神奈川県立近代美術館蔵



2. マックス・クリンガー《「ブラームス幻想」2 昔の恋;時の歯車;歌曲「昔の恋」ブラームス作品番号72-1》  
1894年 エッチング、アクアティント、エングレーヴィング、リトグラフ、紙 神奈川県立近代美術館蔵

2015年1月24日(土) — 3月22日(日)

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-8-1

Tel. 0467-22-7718 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

休館日:月曜日

開館時間:午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料:一般250(150)円、20歳未満・学生150(100)円、65歳以上と高校生100円

※( )内は20名以上の団体料金です。※鎌倉館の観覧券で、当日に限り無料でご観覧いただけます。

※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。その他の割引につきましてはお問い合わせください。

※ファミリー・コミュニケーションの日:毎月第1日曜日(今回は2月1日、3月1日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。

主催:神奈川県立近代美術館

- 担当学芸員によるギャラリートーク:2015年2月8日(日)、3月8日(日) 各日午後2時より  
申込不要、無料(ただし「幻想の系譜」展の当日観覧券が必要です)

- お問合せ先 神奈川県立近代美術館 鎌倉 〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53  
tel. 0467-22-5000 / fax. 0467-23-2464 / e-mail. fm4313.h6g@pref.kanagawa.jp  
広報担当:長島、三本松 展覧会担当:朝木

18世紀末から19世紀末の西洋版画コレクションによって、幻想芸術の流れを紹介いたします。フランス革命により従来の価値観が変化した近代ヨーロッパでは、現実世界の混乱、喪失を背景に、独自の想像世界へと向かう作家が現れます。理性や科学で解決できない、不可視なるものへの狂熱は、美術のみならず、文学、音楽などさまざまな分野でも、互いに共鳴しながら豊かな表現を生み出しました。本展では、ゴヤ(1746-1828)からブレイク(1757-1827)、ドラクロワ(1798-1863)、ルドン(1840-1916)、クリンガー(1857-1920)を中心に、わたしたちの心に今なお、驚きや不安を駆りたてながら、計り知れない世界を垣間見せてくれる、「幻想」の魅力を探ります。



3. フランシスコ・デ・ゴヤ《「ロス・カプリーチョス(気まぐれ)」61 彼女は飛び去った》  
1797-98年 エッチング、アクアティント、ドライポイント、紙  
神奈川県立近代美術館蔵

『戦争の惨禍』(1810-15)、『闘牛技』(1815-16)、『ロス・ディスパラーティス(妄)』(1816-24頃)と並ぶゴヤの四大版画集のひとつで、全80葉で構成されています。痛烈な社会批判と独創的な表現ゆえ、異端審問所から圧力がかかったとされ、初版刊行の二日後にゴヤ自らが販売を中止しました。1793年に全聳となった画家の内面的変化がみられ、現実世界から想像世界へと飛躍する描写には近代における表現の革新がみとめられます。



4. ウィリアム・ブレイク  
《「神曲」1 愛欲者の圏:フランチェスカ・ダ・リミニ(恋人たちのつむじ風)》  
1826-27年 エングレーヴィング、ドライポイント、紙 神奈川県立近代美術館蔵

ダンテの「神曲」の挿絵として、友人で画家のジョン・リネル(1793-1882)の依頼によって制作されました。水彩、素描が100点ほど描かれ、全作が版画化される予定でしたが、7葉を制作したところでブレイクは没し、未完に終わりました。



5. オディロン・ルドン  
《「幽霊屋敷」1 私はその上に人間の形をしたぼんやりした輪郭を見た》  
1896年 リトグラフ、紙 神奈川県立近代美術館蔵

イギリスの小説家エドワード・ブルワー＝リットン(1803-73)の怪奇小説「幽霊屋敷」をもとにしたルドンの版画集。神智学に造詣が深かった貴族ルネ・フィリポン(1870-1936)によるフランス語の抄訳が添えられています。表紙のほか6葉の連作版画で構成され、1896年にフィリポンにより60部が刊行されました。ブルワー＝リットンによる原作(1859年発表)は、ロンドンのバークレー街50番地に実在した幽霊屋敷が舞台で、小泉八雲が「英語で書かれた最も怖い傑作」と賞賛したといひます。



6. マックス・クリンガー《「ブラームス幻想」1 協和音》  
1894年 エングレーヴィング、アクアティント、メゾティント、紙  
神奈川県立近代美術館蔵

敬愛するヨハネス・ブラームスの60歳の記念に、クリンガーが捧げた版画集。ブラームスの5つの歌曲と合唱曲『運命の歌』の楽譜と歌詞に、版画を組み合わせるなどした全27葉(37面)で構成され、随所に多様な技法が駆使されています。クリンガーとブラームスは既に親交があり、本作に感激したブラームスは、クララ・シューマンにも同作を贈りました。音楽、文学、美術に共鳴する「幻想」の表現としても興味深い作品です。